

大雪の対応と200系ドアインシデントで申し入れ 国労長崎地区本部

長崎地区本部は2月22日、「雪害時の対応及びインシデントについて」(国労長崎申6号)の申し入れを長崎支社に行った。

長崎県内は、1月24日から25日にかけて記録的な大雪に見舞われ、長崎線、佐世保線、大村線で大規模な輸送障害が発生した。この時の対応を明らかにするよう求めたもの。

また、交通機関が遮断された中での通勤者の対応と、1月31日に南風崎駅で発生したドアに関わるインシデントについても原因と対策を求めた。

項目は、4項で誠意ある交渉を求めた。



【予想を超える降雪となった長崎駅構内(24日)】

組織拡大を全力で

国労九州本部拡大委員会が2月6日、博多で開催され各委員より職場実態や問題点、組織拡大に向けた取り組みなど真摯且つ活発な討論が繰り広げられた。

総括では喫緊で最重要課題である「組織拡大」に全力で取り組むことが確認され意思統一が図られた。最後に真子委員長の団結ガンバロー！で閉会した。(工藤克氏)



【長崎地区本部の島執行委員(左)と豊田書記長】

2月6日、TKPガーデンシティ博多アネックスにおいて九州本部拡大委員会が開催された。

議長に博多地区本部の萩原委員を選出。真子九州本部委員長は、JR九州は株式上場へ向け設備

九州本部拡大委員会

投資を行いながら乗務員制度改正、駅の無人化、ワンマン運転の拡大を行ってきた。職場の不満は大きい。今春闘は、賃上げ要求はもちろんであるが、特に九州で問題となっている55才以上の在職条件、賃金減額と第二基本給の問題など高齢者から若手までのそれぞれの問題の解決に向け交渉を強化していくと挨拶。

中央本部の唐澤書記長は、春闘を取り巻く政治状況、戦争法・労働法制改悪等に対する取り組みと組織拡大の取り組みを報告した。

家族会の石田会長は、消費税が10%に上がる中、現在の賃金は減り生活は厳しいと訴えた。又、全体で家族会への参加と盛り上げを要請した。

討論は、九州本部委員、地区本部代表、職協代表の13名(北九州=畠山・西、博多=原田・香田・高橋、佐賀=久本・古賀、長崎=島・豊田、鹿児島=福田・柏木・原村・西原)が発言。それぞれの地区・職協がかかえる問題点とこの間の取り組み、各支社との交渉内容などが報告された。

委員会終了後、中央本部監査員の平塚会計士より「マイナンバー制度」の問題点、取り扱い方の注意点などについて講義を受けた。(木寺正輔)